

第7回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2024年10月8日(火) 19時~21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 41名
- ◇内容 単元構想案の相互検討③

【ルーム1】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1) 高山翔伍先生（王寺町立王寺北義務教育学校）

小学校5年 社会科「行ってみたいな！！ 観光の町、王寺」

- ・情報の活かし方、情報の活用の仕方の能力を育てる

①情報の活かし方

王寺町の観光情報について

- ・観光リーフレット
- ・観光ボランティアに関する情報
- ・Facebook、インスタグラム、ホームページでの紹介
- ・インバウンド向けのYou tubeでの発信

②情報の内容について

- ・王寺町観光協会、観光ボランティアさんにインタビュー
- ・観光客のために発信する情報とは「観光客にとってうれしい情報」

達磨寺は県指定有形文化財 おまつり、紅葉、観光ルート 駐車場情報、
マスコットキャラクター・雪まるに関する情報（ゆるきゃらランキング全国12位）

③さらに観光の町として発展するために

- ・どんな取り組みが必要かを考える

小学生ガイド、ミルクィウェイのような大きなイベント

意見交流から

- ・パンフレットを作成し、観光協会や道の駅に届ける。それを手に取った人からのフィードバックが得られるよう、QRコードを付けておく
- ・二次元の成果物よりも動画のほうが、今の子どもたちにとっては作りやすいし、効果も大きい。
- ・行政だけが観光化に取り組むのではなく、多くの市民が参加・協力することで、町を盛り上げていこうというのが、ESDで子どもたちに伝えたいこと。

2) 八尾有紗さん（書道教育専修3回生） 小学校6年 総合的な学習の時間「自分たちの町のごはん」

地元で榊塚味噌を作っている野田味噌工場の教材化

導入：3年生の国語教材「すがたを変える大豆」

給食で食べている味噌汁にも榊塚味噌が使われている

味噌づくり体験を行い、関心をもたせる

野田味噌工場について調べる

昭和3年創業 愛知県の大豆や米を使用した味噌

速醸ではなく天然醸造にこだわっている 15歳あり、役00本の巨大な木桶が並んでいる

問い：どうやって今の野田味噌工場になったんだろう

野田味噌工場さんへの聞き取り

野田味噌は時代の流れに左右されることなく、古来の方法を守り続けている。

問い：地元の伝統的な食材をこの先も大切にしていくためにはどうしたらいいんだろう？

意見交流から

- ・まず食べてみるのが大事。そのことで野田味噌工場に対する関心が高まり、自分たちで何かお手伝いしたいという思いにつながっていく。
- ・野田味噌工場さんへのインタビュー時には、ぜひ職人さんへもインタビューしてほしい。
野田味噌づくりの対する誇りのようなものが聞けるのではないかな。
- ・ひろげる場面について
味噌を使った商品開発・レシピ
栄養面など、味噌の価値を小さなお手紙にして商品につけてもらう。

3) 澤井咲樹さん（英語教育専修3回生） 中学校3年 総合的な学習の時間「Lively GOJO city!」

導入：英語の教科書に掲載されている徳島県上勝町の葉っぱビジネス

消滅可能性の町、上勝町には若者が戻ってきた

実は五條市も消滅可能性である。五條市の活性化がテーマ

五條市の魅力は何だろう？

柿の葉寿司、柿、吉野川祭り、近所のつながり、人のあたたかさ

自分たちで調べるテーマを決めて調べる：どうして〇〇が有名なのだろうか

〇〇を使った五條市活性化プロジェクトを考える

- ①ビジネスの目的を決める…移住者の増加、観光客の増加
- ②対象者を決める…若者、〇〇に興味がある人
- ③ビジネスの内容を決める

プロジェクトを発表し、協力者を探す

意見交流から

- ・地に足のついた学習にする必要がある。五條市の総合政策課の方に来ていただき、五條市として取り組んでいることを聞き、それをもとに考える。中学生として協力できること、もっといいアイデアを考える学習展開にする。
- ・五條市の課題についても、市の職員にインタビューする形で聞き出し、課題解決法を考え学習展開も考えられる。
- ・プロジェクトの発表も五條市の職員に発表し、講評をもらう。

【ルーム2】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1) 藤原萌さん（音楽教育専修3回生）

中学校1年 音楽科「郷土に伝わる民謡『八木節』を知ろう」

地域（足利市）に伝わる民謡「八木節」を教材化した実践を構想した。

地域では、夏祭りや運動会などで踊ったり演奏されており、これからも伝えていくために、私たちにできることは何かを考えさせたり、自分たちで演奏させたりして理解を深めていく。

意見交流から

- ・演奏するという活動と、伝えるという活動とが、どのように関連するのか。
- ・八木節は、足利市らしさを感じることができる教材として評価されていた。
- ・演奏することを通してどのように深めていくことができるか
- ・八木節そのものを残すことを考えながらも、それを育んできた町のコミュニティが続いていくことを生徒に大切に感じてもらいたい。

2) 島田望希さん(社会科教育専修3回生)

中学校2年 総合的な学習の時間「生野区の空き地を減らそう」

生野区の空き家が増えていることに着目し、どのようにすれば減らすことができるのか考える授業を構想した。

当初は、空き家を活用する方法を考える単元設計にしていたが、セミナー参加者から「実際に中学生が活用するプロジェクトにするのはどうか」という意見が出され、この点についていろいろな意見を出し合う時間とした。

→ 例えば、文化祭の行事として催し物をする場、地域の人と中学生の交流の場、美術部の展示会場、吹奏楽部の演奏会場など。

実際に活用することで、暗いイメージがある空き家のイメージを変えることができる。

3) 神吉優利奈さん(特別支援教育専修3回生)

小学校6年 総合的な学習の時間「かき氷の秘密を探れ」

奈良県のかき氷は郷土料理として位置付けられていることに着目し、構想した。

かき氷の由来や、奈良とかき氷の関係について調べ、氷室神社の人のお話を聞いたりして、ふかめていく。

- ・一見、郷土料理には見えないかき氷の秘密を探っていくという点で、とても面白い教材だと思う。
- ・一方、一般的な郷土料理にみられる特徴、例えば地域の固有性や受け継ぐことの難しさなどの課題とは異なるものであり、どのように郷土料理としての教材の良さを引き出していくかが重要である。

【ルーム3】ファシリテーター：中村友弥(奈良市立朱雀小学校)

1) 東瑞さん(美術教育専修3回生) 小学校5年 総合的な学習の時間「奈良のお宝・春日山原始林」

(みつめる) 春日山原始林の魅力について

(しらべる) 春日山原始林がおかしい。困っていることを調べる → 若木が育たない

(ふかめる) これからも春日山原始林を残していくにはどうすればよいだろうか？

(ひろげる) もっと多くの人に春日山のことを知ってもらおう！ 原始林の魅力・課題・保全の視点

意見交流から

- ・好奇心と必要性をどのように育むか。必要性を高めることが大事ではないのだろうか。
- ・春日山原始林は、古都奈良の文化遺産なので、世界文化遺産。もっと春日山原始林の魅力や児童の気持ちに寄り添って、やわらかく考えてみよう。
- ・「ひろげる」でグループ別に分かれと活動が行き詰ってしまうのではないだろうか。

2) 無量井夏音さん(国語教育専修3回生)

小学校6年 総合的な学習の時間「世界平和を目指す6-1サミット」

(みつめる)『世界の現状を知ろう』戦争の写真から考える → 戦争は過去のできごとではない

(しらべる)『テーマについて調べ、班で話し合おう』→交流に向けて世界平和に向けての日本の取組

(ひろげる)『班ごとに意見を出し、交流しよう』→どのような意見やテーマが出てきたらよいのか?

(みつめなおす)学校の平和を考える→けんかやいじめをしないなど

意見交流から

- ・他者理解をどのように進めるのか?
- ・日本で平和に向けての取り組みをしている人に聞いてみてはどうか?
- ・世界から身近に焦点化していくのが良い

3) 田中愛花さん(国語教育専修3回生)

小学校6年 総合的な学習の時間「奈良につづくおもてなしの文化を探ろう」

奈良市立朱雀小学校の児童を想定(茶道体験をしたことがある) 全6~8時間

発問① 「おもてなし」って何?

発問② 奈良ではどんなおもてなしがあるかな? → 茶道がひとつの例

発問③ 私たちも人を「おもてなし」することができるかな?

意見交流から

- ・ピュアな児童でなければ、はまらないかもしれない。
- ・奈良のおもてなしとは何だろう?
- ・授業者が描くゴール、児童がどのように変わってほしいのかをもっと明確にしてもいいのでは?
- ・あいさつとおもてなしが結びつけばいいと思う。
- ・伝統文化であるお茶に焦点をもっとあててもいいのでは?など。

【ルーム4】ファシリテーター: 圓山裕史(奈良市立伏見小学校)

1) 吉岡優来さん(国語教育専修3回生) 小学校4年 総合的な学習の時間「地域と災害」

国語科「もしものときにそなえよう」(光村図書)の学習で自然災害への備えについて調べ学習をした後に、校区(京都市)ではどのように備えているのかを調べたり、話を聞いたりして、防災意識を高める学習である。

自然災害の被害を目の当たりにしたことがない児童に対して、導入では嵐山桂川の氾濫、大阪北部地震の京都市での被害を例に、自分事として捉えられるようにする。

京都市で起こるであろう「地震」「大雨・台風」のどちらかを選んで調べ学習をする設定だが、児童の調べ学習のテーマを絞ることにに関して、意見を頂きたい。

大まかな流れは、ハザードマップの確認→困りごとなどを予想→実際に校区を歩いてみて(保護者や地域の方と)、教えてもらったりしながら、マップに書き加える。その活動の中で、自分ができること・地域でできることやしてほしいことを考えるようにする。実際にどのような防災活動があるかを調べたり、防災の取り組みをしている人から話を聞いたりする機会も設ける。その後、改めて「マイ防災マップ」を作成する。

クラス内で発表することで、他の班の調べ学習と比べたり、調べていない方の発表を聞いたりして学習を深め、他学年や関わってくれた人たちに向けて発信することで学習を拡げるねらいである。

意見交流から

- ・国語から総合の流れが導入としていい。学習のめあてとしても国語科の調べる・発信するのめあてと連動するといい。
- ・外向きの発信時には、学習に関わってくれた防災意識の高い人だけでなく、幅広い対象へ届けられたらいいのではないかと？実際に町にどんな人（老人、障がいのある方など）が住んでいて、そういった人たちの存在を意識した防災マップを作ったり、知ってもらったりするような意識付けがあったらいい。
- ・児童とともに活動する姿がいい。逆に1次、2次あたりで自分事にするしかけがもう少しあってもいいのではないかと。→防災センターへの見学など
- ・4年生の社会が県の学習なので、京都府での特徴的な取り組みを導入にしてもいいのかもしれない。木津川の上津屋橋は災害対策の知恵が施された流れ橋として日本最大級であり、地域住民にも愛着があり、面白い導入になるのではないかと。
- ・もし浸水が起きたらと考える際にVR体験などもいいのではないかと。奈良NHK放送局は、VR体験授業として市内の小学校でも実践例があるし、NHKはVR/ARコンテンツとして災害や伝統行事をVRゴーグルなしで手軽に見られるものもある。
- ・京都市南部はくわいの産地であり、京都のくわいには豊臣秀吉が京の都を災害や敵から守るために周囲に御土居を築き、できた低湿地を利用したといったエピソードがある。また関東でも江戸時代に大水害が起き、稲作が大打撃を受けた際に高く売れて農家を救ったという話もあり、災害と関連のある野菜である。
- ・調べ学習のテーマを絞ることについては、絞っている方が具体的な活動になる。また4年生という学齢的にも自由に調べてテーマから外れることを防ぐためにも絞っていいのではないかと。

2) 木幡美幸さん（社会科教育専修3回生） 中学校2年 総合的な学習の時間「防災 DAY in 大瀬」

生駒市の総合防災マップを読み取り、災害に対しての市の準備、課題などを調べる。市役所の取り組みなども聞かせてもらうことを想定している。

生駒市では消防団の減少などが災害に対しての課題に挙げられている。また、中学生にできることとして、過去の災害で中学生がどんな活躍をしていたかも調べたり、知ったりすることで、生駒市の現状・過去の災害での中学生の活躍から、自分たちにできることを考えるようにする。

→避難所運営体験や総合防災イベントの企画、消防団の職場体験などが想定される。

1月17日が阪神淡路大震災をきっかけに制定された防災とボランティアの日に「防災 DAY in 大瀬」と称して総合防災イベントを企画する。

「調べる」の段階で市役所のインタビューだけでなく、防災センターの見学や地域に出ていく活動は必要か？ということをお聞きしたい。

地域の人たちのことを考えていなかったが、吉岡さんの構想案検討でそこへの視点を持つべきだと感じた。

意見交流から

- ・地域に出ていく活動は、学習や活動の中心が何かによって必要性があるかどうかではないかと。
- ・その地域の方が、配られた防災マップを見ながらリスクの高いところを確認したり、想像したりして実際に確認することも大切だと感じた経験がある。しかし、防災マップの字が小さかったり、白黒でわかりにくかったりすることはよくあることで、実際に生駒市で配られているものもそうであるし、

読みにくい防災マップをアレンジして発信していく活動になったらいいのではないかな。そういった意味では、やはり地域に出ていく活動は必要なのかもしれない。

- ・地域に目を向けるのであれば、高齢の方や障害のある方、外国人などにもイベントに参加してもらえるようにしたい。
- ・企画するイベントに地域の様々な方が参加してもらえるのもいいが、高齢者や幼児が集まるような場に出向くこともいいのではないかな。
- ・実際に共働きが増え、高校生も県内の様々な地域に出ていると、昼間に災害が起きたとき、避難所の中心になるのは中学生だと思うし、中学生だからこそできる学習活動が考えられているのがいい。
- ・総合防災マップを市が出している意味を考えるといいかもしれない。生駒市の中学生としての防災意識を高めるような取り組みになるといいと思う。

【ルーム5】ファシリテーター：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

1) 前川聖太さん（専門職学位課程学校教育マネジメントコース1年）

中学校2年 理科・総合的な学習の時間「バイオマスエネルギーについて考えよう」

ナタネを栽培しながら同時に様々な学習に紐づけていく 環境について考える学習

「バイオエネルギーって何だろう？」

ナタネから油を搾ってバイオ燃料にしよう 量のわりにはあまり油は取れない

いいことばかりではない 悪いところもある

GT・・・課題と現状について話してもらう

学校でも作れないのだろうか 刈草バイオマス 地域へも提案できれば

意見交流から

- ・中学2年生の段階では、目標としてどの部分にあたるのか。
- ・ゲストティーチャーが取り組んでいるのは、バイオマスだけでなく、廃油などを燃料に変える取り組みをしている。
- ・バイオマスの良いところ悪いところもあるのは事実。良いことに気付けない生徒に対してどのような手立てをすればいいか。 →悪いこともあるが、使っていこうという姿勢はなぜかを考えさせたい。
- ・バイオマスエネルギーはわかりにくい部分がある。もう一つネタ（実際に使われている物）があれば、生徒の食いつきも変わるかもしれない。
- ・ナタネを実際に持ってきて、これも電気とつながっていることを実感させる。

2) 福田実莉さん（伝統文化教育・国際理解教育専修1年）

中学校1年 国語・総合的な学習の時間「手書きについて考えよう」

年賀状の比較（印刷したものと手書きのもの） 墨や筆で書くよさは何だろう

「墨や筆を使う文化はなくなってもいいのだろうか？」

墨や筆の会社で現状や課題について話してもらう

前衛的な書道作品を鑑賞 → 「自由に書いていいんだ」「きれいに書かなくても」 芸術作品

自分たちも筆で書いてみよう 相互鑑賞

これからわたしたちにできることは？

意見交流から

- ・自由に書いてもいいが、添削してしまうのはどうか。 →字形でなく、

- ・最後に各文字のテーマについて悩んでいる。
- ・同じ字（テーマ）を書いて一人一人の個性を認め合えるようにしてもいいのでは。
- ・いつやるか時期的なものは考えていない。
- ・メッセージ性があるもの、相手を意識して書くことが大切。
- ・「ふかめる」→「ひろげる」の間に、生徒間で何か学びを深める時間があるのではないか。
- ・墨や筆を使って書くことのよさについて振り返ることもできる。
- ・小学生が書いた書道を見せることでモデルにするのはどうか。
- ・ふだん下手な子がヒーローになれる。
- ・書体から同じ字でも感じ方が違う。

3) 太田遥さん（伝統文化教育・国際理解教育専修1年） 中学校3年 国語「方言と共通語」

方言ラジオ体操（津軽弁）を導入にする → 何を言っているのかよく分からない

方言について調べる 奈良の方言についても調べる

「方言はなくなっていい？」

「ありがとう日本地図」パズルを作成 → 地域性のかたよりも見ることができる

意見交流から

- ・「方言を守っていく」意識を育てるためには、方言が違っておもしろいなという意識を強めてみてはどうか。
- ・方言はなくなっていつているわけではない？ 残していこうという意識はあまりないのではないだろうか。
- ・方言が残っている理由を考えさせる。方言を親しむ。
- ・方言の本を朗読させる。違う方言を使わせることでお気に入りの方言を見つける。
- ・授業者自身が授業を通してどんな子どもの姿にしたいか、具体的に考える必要がある。